

## 統合後の学校の位置を決定する際の考え方の事例

### ■過去の見直し対象校の事例

#### 1 豊ヶ丘中学校と貝取中学校の場合

統合後の学校の位置 ⇒ 貝取中学校

- (1)新しい通学区域のほぼ中央に位置する点
- (2)施設上の使い勝手  
敷地面積が広く、校舎と運動場が段差によって分離されていること
- (3)児童・生徒の地区内での分布状況等

#### 2 竜ヶ峰小学校と多摩第二小学校の場合

統合後の学校の位置 ⇒ 多摩第二小学校

- (1)新しい通学区域のほぼ中央に位置すること
- (2)学校周辺に未利用地が多くあり、今後とも児童の増加が見込まれていること

#### 3 豊ヶ丘・貝取・南野地区の4小学校の場合

統合後の学校の位置 ⇒ (北地区) 北豊ヶ丘小学校 (南地区) 南貝取小学校

##### (1)学校配置

2校がなるべく統合時の規模を持続できるような配置

- ① 2校間の規模格差がなるべく生じないような配置  
現在の児童数が比較的多い学校（児童分布が比較的高い地区の学校）を使用
- ② 保護者が通学距離を重視するか、住区幹線を横断しないで通学するかを選択できる配置
- ③ 子どもたちが通学しやすい配置  
児童の通学距離に大きな差が出ないように、なるべく地区全体の中心に近い位置の学校を選択

##### (2)魅力ある学校づくり

- ① 青陵中学校と連携をとりやすい配置  
小学校2校の連携教育の推進の及び小学校2校に青陵中学校を加えた3校を小中連携教育の推進校として位置づけることを検討

##### (3)通学上の安全確保

通学距離は、防犯上の安全確保のために、なるべく短く設定できるほうが良い

- ① 児童の総通学距離に比較的大きな差が出ない配置  
〔総通学距離： 新たな通学区域内の児童の通学距離の総和〕

※教育委員会が4小学校の上記方策を決定する前段で、審議会は「答申原案の方向性」及び「答申素案」を取りまとめた。(次頁以降参照)

## 南豊ヶ丘小学校、南貝取小学校、北豊ヶ丘小学校及び北貝取小学校の 通学区域の見直しに係る答申原案の方向性について（抜粋）

### 第2 対象校の通学区域の見直し方策

#### 1 方策

##### (1) 見直しの手法

- ① 4つの小学校の通学区域は、統合により2つに再編するものとする。
- ② 4つの通学区域を合わせた区域を南北に分割する。
- ③ 北の通学区域の2校（北豊ヶ丘小学校・北貝取小学校）、南の通学区域の2校（南豊ヶ丘小学校・南貝取小学校）をそれぞれ統合することによって新たな学校をつくるものとする。

##### 【考え方】

- 統合後の学校の一定規模を確保するために、4小学校を2小学校に再編する方向性は、素案と同様とする。
- 通学上の安全を確保するため、通学距離、通学上の高低差、交通安全の面から、3つの配置案について横割り案だけでなく、縦割り案も含め多角的に検討した結果、横割りとする案の方が通学距離を短くできるという点で優れていることが確認できた。このため、素案と同じく通学区域を「横割り」に分割することとした。

##### (2) 統合後の学校の通学区域

###### 北の通学区域

現在の北豊ヶ丘小学校と北貝取小学校の通学区域を合わせた区域とする。

###### 南の通学区域

現在の南豊ヶ丘小学校と南貝取小学校の通学区域を合わせた区域とする。

##### 【考え方】

- 子どもたちへの影響を最小限にするとともに、交友関係を保つことができるよう、これまでの通学区域の枠組みをできるだけ維持する点は、素案と同様の考え方とした。
- 通学区域を先に決めるのではなく、残す学校の位置と同時にこれを検討し、総合的に判断した。

##### (3) 統合後の学校の位置

###### 北の通学区域

- ① 統合後の学校の位置は、現在の北貝取小学校とする。
- ② 北貝取小学校の改修期間中は、北豊ヶ丘小学校を仮校舎として使用する。

###### 南の通学区域

- ① 統合後の学校の位置は、豊ヶ丘中学校の跡地とする。
- ② 豊ヶ丘中学校跡地の改修期間中は、南貝取小学校を仮校舎として使用する。

##### 【考え方】

- 豊ヶ丘地区及び貝取地区というこれまで築かれてきた地域コミュニティを尊重し、見直し後の学校をそれぞれの地区に1校ずつ配置することを基本に、学校の位置を検討した。
- 通学上の安全確保、施設・環境、児童の分布、学童クラブなど、学校の位置を決める上で考慮すべき項目毎に3つの配置案を評価・分析し、総合的に検討した。

○3つの配置案の評価結果は添付資料のとおりであるが、各項目の評価理由を以下に述べる。

比較項目		重要度	評 価 理 由
一定規模の確保		A	3案ともに推計上一定規模の基準を確保できるため◎
地域コミュニティ		A	3案ともに豊ヶ丘・貝取の各地区に1校配置するため◎
通 学 上 の 高 低 差	距離 ・ 横割り	A	縦割りの場合、各案とも相対的に通学距離が長くなり、高低差も生じるためすべて△ 横割りの2・3案は南北ともに距離を抑えられるため◎、1案は南学区の距離が多少長くなるため○
	高低 差 ・ 縦割り		
安 全	交通 安全	A	3案ともに貝取大通りを横断する児童がでるため△
	横割り ・ 縦割り		豊ヶ丘1・2丁目区整地区は貝取大通りを横断するため△
確 保	防犯施設 (交番・駐在所)	B	存在自体に抑止効果が期待できるため、2校とも近隣にある2案が◎、1校にある3案が○、近隣にはない1案が△
学 校 施 設 ・ 環 境	校舎	B	3案ともに評価を分けるほどの差異がないためすべて○
	運動場	C	北貝取小は改良されていて最もよく、次に赤土であるが土壌改良されている北豊ヶ丘小・南貝取小が続き、豊ヶ丘中・南豊ヶ丘小は赤土のままであり、点数化すると各案同数となるが、南豊ヶ丘小の水はけはよくないことから3案のみ△
	校地	B	北豊ヶ丘小の自然林、南豊ヶ丘小のくじら山はこれまでの活用実績があるので1・3案は◎、豊ヶ丘中のクラブハウス、テニスコートは活用が未知数であることから2案は○
	環境	C	利便性では1案が優れるが、周辺環境を含めると各案に大きな差異はないことからすべて○
児童分布		A	学区内の住宅建設予定に伴う推計上の発生見込児童数も含め、児童数の多い順に1案が◎、2案が○、3案が△
学童クラブ		A	学校と学童クラブの距離が短い順に2案が◎、3案が○、1案が△
防災拠点		B	どの案を採用しても防災拠点から遠くなる地区ができるのですべて△
改修経費		C	中学校を小学校に転用、体育館の耐震工事不要、大規模改修実施済など、各校の事情を総合し、各案に大差なくすべて○

凡例【重要度】 A：非常に重要 B：重要 C：一般的

【評 価】 ◎：非常に有益 ○：有益 △：普通

○北貝取小学校及び豊ヶ丘中学校跡地を統合後の学校の位置とし、通学区域を「横割り」とする案が、総合評価において他の案と比較して優れていたため、この案を軸に検討した結果、この両校を統合後の学校の位置とした。

資料1 学校配置 比較評価結果

基本方針・基本姿勢を ふまえた比較の観点		重要度	1 案		2 案		3 案		
			北豊ヶ丘小・南貝取小		北貝取小・豊ヶ丘中		北貝取小・南豊ヶ丘小		
一定規模の確保		A	◎	9	◎	9	◎	9	
地域コミュニティ		A	◎	9	◎	9	◎	9	
通学上の安全確保	距離・高低差	A	横割り	○	6	◎	9	◎	9
			縦割り	△	3	△	3	△	3
	交通安全	A	横割り	△	3	△	3	△	3
			縦割り	△	3	△	3	△	3
	防犯施設 (交番・駐在所)		B	△	2	◎	6	○	4
学校施設／環境	校舎	B	○	4	○	4	○	4	
	運動場	C	○	2	○	2	△	1	
	校地	B	◎	6	○	4	◎	6	
	環境	C	○	2	○	2	○	2	
児童の分布	児童分布 (500m以内) + (住宅建設予定)	A	◎	9	○	6	△	3	
学童クラブ	学童クラブ までの距離	A	△	3	◎	9	○	6	
防災拠点	統廃合による影響	B	△	2	△	2	△	2	
改修経費		C	○	2	○	2	○	2	

学区割り	横割り 計	9	12	12	横計	33
	縦割り 計	6	6	6		縦計

共通	共通 計	50	55	48
----	------	----	----	----

総合評価	横割り＋共通 合計	59 (67.8%)	67 (77.0%)	60 (69.0%)
	縦割り＋共通 合計	56 (64.4%)	61 (70.1%)	54 (62.1%)
	満点	87		

資料2 学校配置 比較評価シート

基本方針・基本姿勢をふまえた比較の観点		1 案	2 案	3 案	重要度			
		北豊ヶ丘小・南貝取小	北貝取小・豊ヶ丘中	北貝取小・南豊ヶ丘小				
一定規模の確保		横割り・縦割りともに 全学年複数学級を確保	横割り・縦割りともに 全学年複数学級を確保	横割り・縦割りともに 全学年複数学級を確保	A			
評価		◎	◎	◎				
地域コミュニティ		横割り・縦割りともに 両地区に1校ずつ配置	横割り・縦割りともに 両地区に1校ずつ配置	横割り・縦割りともに 両地区に1校ずつ配置	A			
評価		◎	◎	◎				
通学上の安全確保	最長距離・高低差	横 割 り [北] モリス～北豊小 約1,490m 高低差約35m [南] 一本杉公園付近～ 南貝小 約1,670m 高低差約15m	[北] 吉祥院付近～北貝小 約1,550m 高低差約35m [南] 貝中南東端付近～ 豊中 約1,160m 高低差約10m	[北] 吉祥院付近～北貝小 約1,550m 高低差約35m [南] 貝中南東端付近～ 南豊小 約1,410m 高低差約15m	A			
		評価	○	◎		◎		
	縦 割 り [東] モリス～南貝小 約1,530m 高低差約35m [西] 一本杉公園付近～ 北豊小 約1,930m 高低差約15m	[東] 貝取5-2-6～北貝小 約1,750m 高低差約5m [西] 吉祥院付近～豊中 約1,870m 高低差約45m	[東] 貝取5-2-6～北貝小 約1,750m 高低差約5m [西] 吉祥院付近～南豊小 約2,120m 高低差約50m	評価		△	△	△
	評価	△	△	△		△		
交通安全	横 割 り [北] 貝取大通り横断の ケースあり [南] 陸橋で渡る	[北] 貝取大通り横断の ケースあり [南] 陸橋で渡る	[北] 貝取大通り横断の ケースあり [南] 陸橋で渡る	[北] 貝取大通り横断の ケースあり [南] 陸橋で渡る	A			
	評価	△	△	△				
防犯施設 (交番・ 駐在所)	縦 割 り [東] 一部地区は大通りを 渡る [西] 大通りは渡らない	[東] 一部地区は大通りを 渡る [西] 大通りは渡らない	[東] 一部地区は大通りを 渡る [西] 大通りは渡らない	[東] 一部地区は大通りを 渡る [西] 大通りは渡らない	B			
	評価	△	◎	○				

学 校 施 設 ／ 環 境	校舎	[北豊] 昭和55年／ 18教室	[北貝] 昭和58年／ 17教室	[北貝] 昭和58年／ 17教室	B
	建築年／ 普通教室 数	[南貝] 昭和52年／ 23教室	[豊中] 昭和51年／ 16教室	[南豊] 昭和51年／ 17教室	
	校舎耐震 補強	[北豊] 平成15年補強工事 済(体育館未施工) [南貝] 平成17年補強工事 済(体育館未施工)	[北貝] 新耐震設計基準 適用済 [豊中] 平成14年補強工事 済(体育館未施工)	[北貝] 新耐震設計基準 適用済 [南豊] 平成16年補強工事 済(体育館未施工)	
	大規模 改修	[北豊] 平成元年プール 平成4年体育館 [南貝] 昭和60年体育館	[北貝] 特になし [豊中] 平成4・5年校舎 平成7年体育館	[北貝] 特になし [南豊] 昭和61年プール 平成元年体育館	
	評 価	○	○	○	
学 校 施 設 ／ 環 境	運動場	[北豊] 6,400㎡	[北貝] 6,820㎡	[北貝] 6,820㎡	C
	有効面積	[南貝] 7,923㎡	[豊中] 11,330㎡	[南豊] 9,930㎡	
	表層仕様	[北豊] 赤土(砂混合による 土質改良) [南貝] 赤土(火山砂利層 装備)	[北貝] 荒木田(校庭改良 整備実施) [豊中] 赤土	[北貝] 荒木田(校庭改良 整備実施) [南豊] 赤土	
	評 価	○	○	△	
学 校 施 設 ／ 環 境	校地	[北豊] 校地内に自然の地形 を利用した自然林	[北貝] 校地が正方形に近い	[北貝] 校地が正方形に近い	B
	校地特性	[南貝] 奥行きのある広い 運動場	[豊中] 広い運動場、クラブ ハウス、テニスコート 等を保有	[南豊] 運動場南側のくじら 山で野鳥観察が できる	
	評 価	◎	○	◎	
学 校 施 設 ／ 環 境	環境	[北豊] 多摩センター駅 徒歩約13分	[北貝] 永山駅 徒歩約14分	[北貝] 永山駅 徒歩約14分	C
	利便性	[南貝] 永山駅 バス約10分 ミニバス約20分	[豊中] 多摩センター駅 バス約15分	[南豊] 多摩センター駅 バス約10分	
	周辺環境	[北豊] 付近にとちのき公園、 豊ヶ丘第九公園 [南貝] 付近に貝取南公園	[北貝] 付近に貝取山緑地、 貝取北公園 [豊中] 付近に豊ヶ丘第六 公園	[北貝] 付近に貝取山緑地、 貝取北公園 [南豊] 付近に豊ヶ丘第七 公園	
	学校開放 (団体数)	[北豊] 体育館3 校庭2 [南貝] 体育館3、校庭3	[北貝] 体育館6、校庭3 [豊中] 体育館9、校庭6 クラブハウス13、テニスコート2	[北貝] 体育館6、校庭3 [南豊] 体育館5、校庭3 陶芸窯1	
	評 価	○	○	○	

児童の分布	児童分布 (500m以内) + (住宅建設 予定)	[北豊] 約300人 + 発生児童数見込 11人 (31戸・25戸の戸建建設)	[北貝] 約170人 + 発生児童数見込 6人 (44戸のマンション建設)	[北貝] 約170人 + 発生児童数見込 6人 (44戸のマンション建設)	A
	評価	◎	○	△	
学童クラブ	学童クラブまでの 距離	[北豊] 貝取学童まで 約750m [南貝] 豊ヶ丘学童まで 約820m	[北貝] 貝取学童まで 約160m [豊中] 豊ヶ丘学童まで 約170m	[北貝] 貝取学童まで 約160m [南豊] 豊ヶ丘学童まで 約420m	A
	評価	△	◎	○	
防災拠点	統廃合による影響	豊ヶ丘1・2丁目地区は 学校が避難所・避難場所 として確保できるが、豊 ヶ丘6丁目、南野2丁目 地区の避難所・避難場所 がやや遠くなる	豊ヶ丘・貝取地区のほぼ 全体が両学校から半径 750m圏内に入るが、豊ヶ 丘1丁目地区の避難所・ 避難場所がやや遠くなる	豊ヶ丘・貝取地区のほぼ 全体が両学校から半径 750m圏内に入るが、豊ヶ 丘1丁目地区の避難所・ 避難場所がやや遠くなる	B
	評価	△	△	△	
改修経費	統合校の 改修経費	[北豊] 建築後約27年経過 改修概算経費 約6億5千万円 体育館耐震補強 約3千万円 [南貝] 建築後約30年経過 改修概算経費 約6億5千万円 体育館耐震補強 約3千万円	[北貝] 建築後約24年経過 改修概算経費 約6億5千万円 体育館は耐震補強不要 [豊中] 建築後約31年経過 平成4・5年大規模改修実施済の ため、小学校用改修費と合わせ、 他の小学校改修概算経費と同程 度の額となる見込み	[北貝] 建築後約24年経過 改修概算経費 約6億5千万円 体育館は耐震補強不要 [南豊] 建築後約31年経過 改修概算経費 約6億5千万円 体育館耐震補強 約3千万円	C
	評価	○	○	○	

【評価凡例】 ◎ 非常に有益である  
○ 有益である  
△ 普通である

【重要度凡例】 A 非常に重要である  
B 重要である  
C 一般的である

## 南豊ヶ丘小学校、南貝取小学校、北豊ヶ丘小学校及び北貝取小学校の 通学区域の見直しについての答申素案（抜粋）

### Ⅱ 対象校の通学区域の見直し方策案

#### 1 方策

##### (1) 見直しの手法

##### (2) 統合後の学校の通学区域

##### (3) 統合後の学校の位置

###### 北の通学区域

- ① 統合後の学校の位置は、現在の北豊ヶ丘小学校とする。
- ② 北豊ヶ丘小学校の改修期間中は、北貝取小学校を仮校舎として使用する。

###### 南の通学区域

- ① 統合後の学校の位置は、豊ヶ丘中学校の跡地とする。
- ② 豊ヶ丘中学校跡地の改修期間中は、南貝取小学校を仮校舎として使用する。

###### 【理由】

- 統合後の学校の位置や環境は、後で変えることはできないので、南北の通学区域ごとによりよい位置を選択すべきである。
- 地域的なバランスで、統合後の学校の位置を決めるべきではない。

###### 〔北の通学区域〕

- 両校で行われている教育内容の質（特色ある教育内容）の部分は、どちらの学校の位置を使用するとしても、統合後の学校に引き継ぐことができる。
- 子どもたちの通学距離、新たな通学区域内での学校の位置の面では、両校とも大きな差異はないが、両校を比較した結果、以下の点で優れていることから北豊ヶ丘小を使用すべきものとした。
  - ・北豊ヶ丘小の自然林は、他校にない環境面での特徴であり、環境教育に役立てることができ、これからも活用が期待できる。
  - ・北豊ヶ丘小の近隣には住宅が建設されており、この地域に学校がなくなることによる影響がある。
  - ・北豊ヶ丘小には、駅に近い位置にあるという学校運営上の利便性がある。

###### 〔南の通学区域〕

- 通学距離を短くできること、学校は地域の防災拠点となることから、統合後の学校の位置はなるべく通学区域の中心に近いほうがよい。
- これまで中学校だった施設を小学校に転用することで、施設面から、より多様な教育が展開できる。
- 中学校施設の小学校施設への転用に当たっては、細心の注意を払い、十分な配慮が必要である。
- 施設の余裕があること、児童数の比率・分布、登校時に中学生と同一方向に通学することなどから南貝取小を仮校舎として使用する。